

令和7年度

授業改善推進プラン【前期課程】

- ①令和7年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和7年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立都の北学園

令和7年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全学年において「知識・技能」「思考・判断・表現」において、目標値、全国平均を上回っています。
社会	5年・6年ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」は目標値を上回っています。しかし、5年・6年ともに区平均と比べると、「思考・判断・表現」は下回っています。
算数	全学年において「知識・技能」「思考・判断・表現」において、目標値、全国平均を上回っています。6年生においては、区平均と比較すると「知識・技能」で1.8ポイント下回っています。
理科	4～6年生の実施です。区平均と比較すると、4年は4.1ポイント、6年は0.1ポイント区平均を上回っていますが、5年は2.9ポイント下回る結果になりました。
英語	6年生のみの実施です。目標値は超えていますが、区平均を1.1ポイント下回りました。聞く分野においては、5.7ポイント目標値を上回っていますが、アルファベットの読みについては3.2ポイント下回っています。

本校が児童に育成したい力
○基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上 ○家庭学習の習慣化 ○各教科の思考力・判断力・表現力の育成 ○学びに向かう力の育成

校内における学力向上推進体制
○校内研究を日々の授業に生かし、各教科の系統性を見通した授業改善の実践を行っていく。 ○ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業をして、学力の向上を図る。 ○授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。 ・課題に応じた指導に重点を置き、基礎基本の定着を図る。 ・学力パワーアップ講師と連携し、個別指導を充実させ、個に応じたきめ細かい指導を実践する。 ・きたコンの活用を充実させ、基礎基本の定着や考えの共有による学びの深まりを実現していく。	・放課後に「学力フォローアップ教室」を実施し、学力の個人差の大きさに対応する。今年度は2年生にも拡大し、実施している。 ・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・GIGAスクール構想におけるきたコンを活用とした授業を実施する。	・研究主題が「自ら学びつづける児童・生徒の育成」である校内研究を推進し、9年間の系統性を見通した授業改善を行い、児童の学びに向かう力を育成する。研究推進委員会を中心に計画的し、組織的に実施する ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的に行い、それぞれの授業力を向上させる。	・指導計画と一体化した評価計画により、評価を行う。評価規準を明確にし、個々の児童に応じた評価を行う。（絶対評価） ・児童のノート・ワークシートの記録や授業での様子の観察等から、一人一人の学習の成果を考察する。 ・振り返りの活動を重視し、児童がその時間にどのようなことを学んだのかを自分で確認させるとともに、教師がそれを価値付けていく。	・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子どもを育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による児童の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者や学校運営協議会による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。

本校の教育目標
社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。 1. 自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人（豊かな心） 2. 自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人（学びつづける力） 3. 心も体も健康で、仲間とともに取り組む人（すこやかな体）

学力向上にかかわる経営方針
・各教科の単元、題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。 ・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。 ・学習する児童生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。 ・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。 ・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。 ・正しい日本語を用いて指導に当たる。 ・多様なニーズに対応できるよう、教材準備に努める。

〔様式2〕 令和7年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
東京都北区立都の北学園

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は85.2ポイントと、目標値を8.7ポイント上回っています。区平均も2.6ポイント上回っています。内容別でみると、ほぼすべての内容で目標値を上回っていますが、「物語の読み取り」と「文章を書く」の内容で目標値に近い値になっています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、目標値、区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は7.9ポイント、「思考・判断・表現」は9.2ポイント上回っています。	内容・観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値もほぼ全て上回っているため、前学年の段階の内容はよく身に付いていると分析します。しかし、「物語を読み取る」は区平均を下回っており、他の内容と比較すると今後の課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は89.6ポイントと目標値を7.2ポイント上回っています。区平均からは1.9ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っていますが、「三つの数の計算」についてはほぼ平均と同じになっています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに目標値、区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は6.5ポイント、「思考・判断・表現」は10.0ポイント上回っています。	内容・観点をそれぞれ分析するとほぼ全ての項目で目標値を上回っています。学習の積み重ねができていますと分析します。しかし、引き算や形の問題での正答率が低く、問題の読み取りが不十分な可能性があり、今後の課題です。

〔様式2〕 令和7年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「説明文を読み取る」と「文章を書く」の2項目は、目標値と全国平均を上回っていますが、区平均より1.9、2.0ポイント下回っています。その他の内容は、目標値、全国平均、区平均より上回っていて、特に「漢字を書く」「物語を読み取る」は全国平均より10ポイント以上高いです。	「知識・技能」は目標値、区平均、全国平均よりも上回っていて目標値よりも6.9ポイント高いです。「思考・判断・表現」は目標値よりも8.3ポイント、全国平均より6.6ポイント上回っていますが、区平均よりは0.4ポイント低くなっています。	「話を聞きとる」「漢字を読む、書く」「言葉の学習」などは目標値よりも10ポイント前後上回っているため基礎的な内容はおおむね理解できているといえます。しかし、「文章を書く」の内容は正答率0の児童も多く見られるので、条件を設定された中で文意を読み取り、伝えたい内容を文章に書き表す力が弱いといえます。思考力、表現力を高め、自分の考えを文章に書く力を高める必要があると考えます。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての内容において目標値、全国・区の平均を上回っています。「はこの形」「長さ・かさ」においては区の平均を両方とも6.4ポイント上回っています。また、「はこの形」は9.7ポイント、「時ごとと時間」は9.0ポイントと9ポイントを超えており、全国平均を大きく上回っているといえます。	両方とも、目標値、全国・区の平均を上回っています。特に全国平均を6.7ポイントと大きく上回っています。区平均と比べると「知識・技能」は3.2ポイント、「思考・判断・表現」は0.9ポイント上回っています。	目標値、全国・区の平均をすべて上回っていますが、問題別にみると「繰り下がり1回の2けたー2けた」が唯一目標値を下回っています。また、区平均で比べると「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」のポイントが下回っています。これらのことから、基礎的な内容を応用する力、それに伴う思考力、判断力を高めていく必要があると考えます。

〔様式2〕

令和7年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は74.4ポイントと、目標値を7.8ポイント上回っています。区平均も0.9ポイント上回っています。内容別正答率でみると、「文章を書く」が12.5ポイント、「説明文の内容を読みとる」が16.6ポイント、「物語文の内容を読みとる」が、11.2ポイントと区平均を大きく上回っています。一方、「漢字を書く」が7.9ポイント下回っています。	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とも、目標値、全国平均を上回っています。区平均と比較すると、「思考力・判断力・表現力」は2.2ポイント上回っているものの、「知識・技能」は、1ポイント下回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値も全て上回っているため、前学年の内容がほぼ身に付いていると分析します。ただし、「知識・技能」のポイントが低い主な原因は、「漢字を書く」力の低さだと考えられます。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべて全国平均を上回っています。しかし、9つ中6つの内容で区平均を下回っています。中でも「かけ算」は5.8ポイントと大きく下回っています。「たし算・ひき算」においては目標値に0.4ポイント達していません。	両方とも目標値と全国平均を上回っています。しかしながら区の平均と比べると「知識・技能」が0.3ポイント、「思考・判断・表現」で1.5ポイント下回っています。問題別でみると、全国平均よりも「乗法の筆算に出てくる数の意味理解」が2.7ポイント、目標値よりも「あまりのある除法の文章問題の答え」が6.4ポイント下回っています。	特に下回っている項目に注目すると、乗法・除法の数の意味理解が十分ではないと考えられます。問題把握の時点で場面の状況の理解や求めること、「1つ分の数」「いくつ分の数」がどれなのか理解することや単位を正確に認識することが課題であると考えます。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての内容において目標値、全国・区の平均を上回っています。「身近なしぜんのかんさつ」においては8.9ポイント、「植物の育ち方」においては6.6ポイント区の平均を上回っています。	両方とも、目標値、全国・区の平均を上回っています。特に全国平均を7.1ポイントと大きく上回っています。区平均と比べると「知識・技能」は5.0ポイント、「思考・判断・表現」は2.3ポイント上回っています。	目標値、全国・区の平均をすべて上回っていますが、問題別にみると、「こん虫の育ち方」や「光のせいしつ」「じしゃくのせいしつ」が区の平均値に近くさらに強化していく必要があると考えます。また活用の正答率が基礎よりも10ポイントほど下回るので活用力を高めることが課題であると考えます。

〔様式2〕

令和7年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は74.2ポイントと、目標値を8.2ポイント上回っています。区平均も2.4ポイント上回っています。内容別でみると、「漢字を書く」は19.1ポイント、「漢字を読む」は目標値を8.5ポイント上回り、「調べたことをもとに文章を書く」は目標値を3.1ポイント下回っています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、目標値、区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は9.9ポイント、「思考・判断・表現」は6.9ポイント上回っています。	内容・観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値もほぼ全て上回っているため、前学年の段階の内容はよく身に付いていると分析します。しかし、「調べたことをもとに文章を書く」は目標値を下回っており、他の内容と比較すると今後の課題です。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は区平均正答率と同じ68.8ポイントでした。目標値は3.6ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っています。区平均から見ると、「くらしをささえる水」で0.9ポイント、「先人の働き」で2.0ポイント下回っています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、目標値を上回っています。区平均から見ると「知識・技能」は1.4ポイント上回っていますが、「思考・判断・表現」は1.3ポイント下回っています。	「知識・技能」は区平均を上回っていますが、「思考・判断・表現」では区平均を下回っています。「先人の働き」の内容において、複数の資料をもとに考えを表現する記述の問題の正答率が低く、無回答率が高いです。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は73.5ポイントと目標値を7.6ポイント上回っています。区平均からは1.6ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値を上回っていますが、「わり算・計算のきまり」については下回っています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに目標値、区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は6.2ポイント、「思考・判断・表現」は10.9ポイント上回っています。	内容・観点をそれぞれ分析するとほぼ全ての項目で区平均や目標値を上回っています。学習の積み重ねができていると分析します。しかし記述する設問に対しての無解答率が高く、正答率が低く、根拠を明らかにして説明する力を付けることが今後の課題です。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は58.9ポイントと目標値を2.8ポイント下回っています。内容別では、物のあたためり方の内容が目標値を8.8ポイントと大きく下回った結果になり、他の内容も3～4ポイント低く、目標値を上回った項目は、「物の体積と力」と「自然の中の水」の項目でした。	「知識・技能」の観点では、目標値を1.9ポイント下回っていますが、「思考・判断・表現」の観点で、4.1ポイント目標値を下回っています。「知識・技能」の観点のポイントは前年度の全国平均とほぼ同じ数値となっていますが、「思考・判断・技能」の観点は前年度の全国平均も下回っています。	全般的に物質・エネルギー領域も生命・地球領域の両域とも目標値も区平均にも達することができていません。知識・技能の観点では、全国平均をわずかに上回っていますが、区平均までは達していません。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は69.3ポイントと、目標値を3.7ポイント上回っています。また、全国の平均正答率よりも2.9ポイント上回っています。内容別正答率では、「言葉の学習」「報告する文章を書く」「文章を書く」以外は全て目標値を上回っていますが、区平均から見ると半数以上の項目が下回っています。	目標値、全国平均と比較すると全ての項目で上回っています。しかし、区平均と比較すると「知識・技能」は0.9ポイント、「思考・判断・表現」は0.4ポイント下回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると目標値を上回っている分野が多いため、前学年の学習内容が比較的身に付いていると分析します。しかし「我が国の言語文化に関する事項」や「書くこと」が平均を下回る結果だったため、今後の課題です。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、73.0ポイントと目標値を5.5ポイント上回っており、区の平均と比較しても1.8ポイント上回っています。内容別正答率では、すべての内容で目標値を上回っており、中でも「世界の中での国土」「日本の食料生産」および「自然環境と国民生活」では、目標値を10ポイント以上上回っています。	目標値と比較すると、「知識・技能」は4.8ポイント上回り、「思考・判断・表現」は6.7ポイント上回っています。区の平均との比較では、「知識・技能」は3.5ポイント上回り、「思考・判断・表現」は0.7ポイント下回っています。	いずれの領域においても、良好な結果となっていますが、傾向として「知識・技能」に比べ「思考・判断・表現」に課題があると判断できるので、より深く資料を活用する能力と身についた知識技能を生かして表現できる能力を高めさせていくことが、今後の課題です。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は概ね目標値を平均6.5ポイント上回っています。特に「分数の計算」は11ポイント上回っており、得意にしている児童が多いと分かります。一方「多角形と円・合同」「面積」の図形領域と「割合」は目標値を下回っています。そして区平均から見ると「分数」「割合」以外は下回っており、補充が必要なのが分かります。	目標値、全国平均と比較すると、全ての項目で上回っています。しかし区平均と比較すると「知識・技能」で1.8ポイント下回っています。「思考・判断・表現」ではほぼ横ばいで0.1ポイント上回っていました。	内容と観点をそれぞれ分析すると、既習事項の定着が不十分であると考えられます。復習や問題演習を繰り返し、着実に力を付けるようにすること、また記述式の無回答率が他の問題に比べて20ポイント以上高いので、論理的に説明する力を養うことが今後の課題です。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率(65.8)は目標値(65.0)・区平均(65.7)・全国平均(65.7)に対して、わずかではありますが、いずれも上回っています。領域別正答率では、物質・エネルギー領域において目標値を1.7ポイント、生命・地球領域において目標値を0.4ポイント上回り、理解度が上昇傾向にあると思われます。	3観点のうち、「知識・技能」では目標値・区平均・全国平均をいずれも数ポイント上回っています。しかし、「思考・判断・表現」では、わずかに下回っています。知識の蓄積や技能の習得は伸びていますが、考えたり、表現したりする能力において平均よりやや下回っているという傾向がみられます。	全般的に、物質・エネルギー領域の問題において正答率が目標値・区平均・全国平均を上回り、「知識・技能」の観点でも上回っています。この観点では、前年度校内平均から5ポイント以上も上回り、この領域では着実に学習の結果が現れていると思われます。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は、目標値に比べると6.7ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値に対して大きく上回っています。しかし、「アルファベットの読み(聞く)」については、約2ポイント下回っています。全国平均正答率に対しては、全ての項目で上回っています。	目標値と比較すると、「知識・技能」については、6.3ポイント。「思考・判断・表現」については7.3ポイント上回っています。しかし、区平均正答率と比べると1.3ポイント、0.9ポイントとそれぞれ下回っています。全国平均正答率に対しては、2ポイント、3.8ポイントそれぞれ上回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると、「アルファベットの書き」は、約9割の正答率であることに対して、「アルファベットの読み(聞く)」は、7割に満たない結果でした。アルファベットを読むことや聞くことなどの、基本的な力を身に付けることが課題であると考えます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	特殊音節の読み書きに課題が見られます。6月下旬にひらがな五十音の指導が終わったので、引き続き指導を重ねる必要があります。また、文章中の「は」「へ」「を」の表記に課題が見られます。音読や語彙を増やす学習を強化する必要があります。	促音、長音、拗音が入った言葉は、MIMの動作を取り入れながら読む工夫をしていきます。その動作を書くことへつなげられるよう指導していきます。また、言葉集めやしりとりをしたり、詩集を読んだりし、多くの言葉や文章に触れる機会を設けていきます。文章を書く活動も増やし、助詞を正しく使えるよう繰り返し指導していきます。	家庭学習では、促音、長音、拗音が入った言葉のプリントを行っていきます。漢字指導が始まった後は、小テストをこまめに行って理解を把握し、必要に応じて個別指導も行っていきます。また、文章を書いた後には、助詞、句読点など見直しをする習慣を身に付けさせていきます。
2年	分析結果より、読み取る力に課題が見られます。そのため、叙述に沿った読み取りと、自分の思いや気持ちとの違いを明確にし、読み取り方の指導をする必要があります。また、言葉の学習や音読の学習を強化する必要があります。	文章を読むにあたり、最初に知らない言葉を補いつつ場面構成を分けて考えます。そして、場面ごとに読み取りを深め、出来事と登場人物の心情を分けてまとめ、そのとき様子を自分なりに考える際には、叙述にそって根拠を示せるようにします。	国語以外の教科でも読み取りについて意識を向けさせていきます。特に算数の文章問題では何を聞かれているのか、必要な情報を分析してから問題に取り組ませて行きます。また、文章を書く際にも、文の構成を意識させ、「始め、中、終わり」になるように文章を書かせていきます。
3年	物語の読み取りや文章を書くことに課題があります。領域別においても「読むこと」「書くこと」は区平均を下回っています。説明文での文章の構成や、「問い」と「答え」を確認すること、文章中での重要な語を選定すること、自分の考えを文章化することを積み重ねて指導をしていく必要があります。	物語や説明文の読み取りを強化していくために、今後学習する「すがたをかえる大豆」や「ありの行列」では文章中の重要な語の探し方を丁寧に指導していきます。また、「書くこと」においては授業内で繰り返し物語の感想や自分の考え・経験等を文章化する時間を設けることで、書く内容の中心や伝えたいことを明確にして書くことを積み重ねていきます。	授業内だけでなく、モジュール等も活用しながら、説明文の読み取りの指導のための時間を確保していきます。書く学習においては、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合う時間を意図的に設定し、自分の文章のよいところを見付けられるようにします。
4年	領域別においては「漢字を書くこと」が区の平均値と全国の平均値を下回っています。第3学年の漢字の復習を中心に、漢字を「書くこと」の指導を再度行う必要があります。また話合いの内容を聞き取ることや言葉の学習を強化する必要もあります。	新出漢字の定着を図るためにも、毎回の単元で定期的に定着度をはかったり、日々の文章を書く活動で既習漢字を用いて書くことを意識付けしていきます。「書くこと」の活動で習得した内容を、各教科において活用し、様々な文章を書けるようにします。書いた文章を見直す推敲の時間も確保していきます。	ミニテストや漢字50問テストを行う際に合格点を設定するなど、児童に緊張感をもたせながら定着を図っていきます。また「クラスみんなで決めるには」などの話し合い活動を通して、内容を聞き取る練習や正しい言葉遣いを身に付けさせていきます。
5年	分析結果より、調べたことをもとに文章を書くことに課題が見られます。そのため、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書く指導をする必要があります。また、漢字辞典の使い方や連体修飾語についても目標値を下回っており、言葉の学習を強化する必要があります。	文章を書き始める前に、モデル文を全体で確認し、書き方を学ぶ時間を確保します。その際、自分の考えと事例との関係を明確にできるような文章構成を理解できるようにします。また、言葉の学習にも力を入れ、分からない言葉を辞書で調べ、語彙を増やしていきます。	理科や社会、総合的な学習の時間などの調べ学習において、文章をまとめる際に国語で学習した書き方を意識できるようにします。また、友達の書いた文章を読む時間を意図的に設定し、良いと思ったところを自分の文章に取り入れられるようにします。
6年	教科全体としては、目標値を3.7ポイント上回っています。内容別で見ると「言葉の学習」「報告する文章を書く」「文章を書く」を除いて目標値を上回っています。区平均と比較しても目標値に達していない3つの項目には課題が見られます。言葉の使い方や文章の構成の定着を強化していく必要があります。	「書くこと」全般を強化していくために、9月から学習する「文章を推敲しよう」の単元では指導を計画的に行い、丁寧に進めていきます。また、文章の書き方に慣れさせていくために、文章を書く順序を示して各授業の感想を書きさけるようにします。、言葉の学習にも力を入れ、分からない言葉を辞書で調べ語彙を増やしていきます。	「比べて読もう新聞コンクール」での新聞記事の要約や「少年の主張」での意見文を書く活動を通して、自分の考えを文章にすることや相手に伝わるような文章構成の仕方について学習を補完していきます。書いた文章を読み返し、自分が書いた文章を校正してよいものにする力を付けていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	具体的に調べてみたいという意欲は多くの児童にあります。しかし、資料を活用して、必要な情報を得て、調べた内容から自分で考えたことを表現、説明することに苦手意識も見られます。考えを明確にしやすい資料を提示したり、補足説明をしたししながら、丁寧に授業を進めていく必要があります。	教師側が意図した資料を渡し、調べることを焦点化するなどし、効果的な調べ学習を行えるようにします。表現力については、ノートによる自由記述を繰り返すことで、課題に対して自分の意見や考えを書くことに慣れさせていきます。	社会の学習時間に前時の学習を振り返る時間を十分に確保し、プリント学習などを通して学習の定着を図ります。自分の意見や考えを表現する場面を作り、書き方の指導を行っていきます。
4年	資料をもとに読み取ったり課題を見つける力に差があります。また現地見学や調査活動に限られ、児童の主体的な学びが十分に促されていない様子もみられます。調べ学習や体験活動の工夫、身近な社会との関連づけが今後の課題と考えられます。	暗記型の授業を減らし、「なぜ?」「どうして?」と問いかける場面を増やしていきます。また児童の家や地域と関連させながら授業を作ります。「水道キャラバン」や防災・減災教育など実際に体験し学ぶ機会を増やしていき、児童が主体的に学ぶ場面をどの単元でも増やしていきます。	資料から出来事の内容や背景を理解する学習を多く取り入れ、資料から必要なことを読み取る力を高める。また、タブレットを活用しながら、グループごとに調べ学習や資料作成、発表活動を行います。
5年	分析結果より、複数の資料をもとに考えを表現する「思考・判断・表現」の観点において課題が見られます。そのため、日々の授業において、資料をもとに考えを組み立てたり、考えを表現する場面を設けたりする必要がありと考えています。	資料を比較・整理しながら読み取る活動を取り入れていきます。また、「資料から読み取れること」「自分の考え」を分けて書くなど、記述の型を提示し、考えを整理する支援を行いながら、資料から得た情報をもとに、自分の考えを文章で説明する練習を段階的に行います。	学習内容の定着を図るため、授業後の振り返りや、復習プリントを行う時間を作ります。発展指導においては、学習した内容を活用して自分の考えを表現する活動を行います。また、友達と考えを共有する時間を作り、良いと思ったことを取り入れられるようにします。
6年	学習に対して消極的であった児童に意欲の向上が認められます。さらに意欲の向上を目指して、学習課題の明確化・学習内容の共有化を進めていきます。特に歴史分野の学習では、単なる暗記学習に留まらぬよう、出来事の背景について確実に理解させ、多面的に学習内容の定着を図ります。	政治分野では、現行憲法と旧憲法の比較をすることで、わが国の憲法の崇高な内容を理解させます。歴史分野では、時代を戻りつつ変容を理解させます。国際関係分野の学習では、将来に生きる子どもたちが、どのように他の国々と関わっていくべきなのかを考えていきます。	補充については、年表やプリントを活用して、実際に手を動かし視覚化させ定着を図っていきます。発展指導は、児童の疑問やつぶやきや意見をひろいあげ、タブレット端末等を活用した調べ学習につなげ、表現する能力を高めさせていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	10までのたし算・ひき算は正答できるが、時間を要する児童や指を使う児童がいます。また、文章題は問われている意味が分からず、正答できない児童がいます。問題文を読み取る力を身に付けていくことが課題です。	・授業の始まりに計算カードやフラッシュカードに取り組む時間を確保します。 ・文章題は意味を確認しながら半具体物などを用いて一斉指導し、問われていることを確認します。復習では多くの問題に取り組むように単元計画を立てていきます。	・宿題や朝学習で計算プリントなどに取り組ませ、習熟を図っていきます。 ・ペアで考え方を伝え合う時間を設け、自分の考えを伝え、聞く学習を取り入れていきます。 ・個に応じた指導を適宜行っていきます。
2年	分析結果より、ほとんどの項目で目標値を上回っており、基礎の定着が見られました。特に「思考、判断、表現」では、平均値を大きく上回る結果が見られました。しかし、その中でも引き算や形の問題での正答率が低く、問題を読み取る力をつけていく必要があると考えます。計算カードや10の構成カード等の既習事項の反復練習を積極的に取り入れた授業展開を継続する必要があると考えます。	・課題に対して、自分で考える時間や、友達の意見を聞く時間をしっかりと、学び合いが深まる時間を確保します。 ・単元計画を立て、学習の目標を把握しそれに向けた授業準備を行います。	・既習事項の定着に向け、朝の学習タイム等を活用し反復練習を行います。 ・児童個々の様子を把握し、必要な支援を行えるように準備します。 ・ペア学習やグループ学習を行い、自分の考えを伝える時間を確保します。
3年	基礎的な内容の理解はできており、自分なりの考えを表現することもできています。しかし数が大きくなったり繰り下がりが多くなったりして計算が複雑になると誤りが増える傾向が読み取れます。そのため、確実な定着を図るために、実態に合わせた指導計画を柔軟に変更して反復の時間を設定することが必要であると考えます。	・自分の考えを簡潔に表現できるよう、箇条書きやナンバリングが習慣になるよう指導します。 ・文章問題の求めることや数の意味理解を確実にするために、自分で考える時間や説明する時間と機会を確保したり、言葉の式にあてはめる活動を取り入れるようにします。	・定着しにくい内容は、具体物を一人ずつ操作する活動を取り入れて理解を深めたり、難易度が変わらない問題に数多く取り組んで慣れたりできるようにします。 ・いろいろな考えを使って答えを導き出そうとする意欲がもてるようにし、それを他者に向けて分かりやすく説明する時間を設定します。
4年	定着しにくい内容や誤答が予想される内容において、理解が深まらず定着がみられないという実態があります。また、乗法・除法における数の意味理解が不十分であるがゆえ答え方を誤っていると考えられます。これらを他者との交流を通して説明したり違いに気付かせたりして理解を深め、考えを広げられるような指導が必要であると考えます。	・授業を進める中で、丁寧に実態把握をし理解が深まるよう全体と個別のバランスを見極めながら指導します。 ・自力解決する時間を確保し、その後自分の考えを分かりやすく説明する機会を設けてから集団解決にうつるようにします。	・既習事項の定着徹底を図り、活用しながら問題を解決できるように必要に応じて掲示します。また、やり方や考え方を全体で確認した後、個人の反復の時間を多くとるようにします。 ・与えられた問題を解くことだけにとどまらず、思考力、判断力、表現力を高めるために条件に即した問題作りに取り組む時間を設定します。
5年	演習問題を解く時間を毎時間十分に設定できず、「知識・技能」の反復練習が不足していました。問題に対する自分の考えを書くことはできるようになりましたが、そこから他の友達との考え方の比較検討が不十分で、考えをより深めることができていません。また分析の結果より計算問題を苦手としている児童が一定数いることが分かりました。九九・整数のわり算・筆算など既習事項の定着が不十分なことが考えられます。	・単元のはじめには関連する既習事項の復習をします。また必要に応じて、復習問題に取り組むようにします。 ・問題→見通し→自分の考え→みんなの考え→まとめ(振り返り)という授業展開を行っていくことで、公式を暗記するのではなくなぜ公式が成り立つのかを考える機会を設けます。	・児童の実態に応じて問題の提示の仕方を工夫します。復習問題や既習問題を想起させてから新しい課題に取り組ませるようにします。 ・考えの相違点に着目させたり、他の人の考えを説明したりして考えを広げる機会を増やします。
6年	学力差があり、苦手としている児童は既習内容の定着(九九・整数のわり算・筆算など)が不十分です。また公式をただ暗記しているだけで、意味理解までは不十分なため活用して考えることが苦手です。演習問題を解く時間を毎時間十分に設定できず、「知識・技能」の反復練習が不足していました。	・授業の終わりに、反復練習ができるドリルやワークシートを用意し取り組ませ、基礎基本の定着を図るようにします。 ・単元のはじめには関連する既習事項の復習をします。また必要に応じて、復習問題に取り組むようにします。	・児童の習熟度に応じて、復習問題や既習問題を想起させてから新しい課題に取り組ませるようにします。 ・全体で比較検討する前に考え方を比較検討する際の視点を示すようにし、どの解き方がよりよいのかを話せるようにします。またペアで考え方を説明したり、他の人の考え方を自由に見たりする時間をつくるようにします。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	初めての実験に興味関心をもって取り組む児童が多いです。校内に学習園や校庭がないため、自然観察の単元では限られた環境での学習でICTも活用しながら学習に取り組むことができました。そんな中、記述式の問題では、どのように解答したらよいのか分からない児童もあり、課題があります。	予想や考察を自分の言葉で書けるように、グループ学習等を通して他の人の意見から学びを深める機会を多く作っていきます。また、学習内容が身近なところで、どのように活かされているのか考えながら学習に取り組めるように発問を工夫していきます。	初めての理科の学習のため、学習の流れを丁寧に積み重ねていけるようにしていきます。既習事項を生活に活かしてもものづくりをしたり、発表したりする機会をもちます。
4年	基礎と活用の正答率を見ると16ポイント活用が下回っており、基礎を生かして問題解決することに課題があります。実験や観察の結果を考察につなげる指導法を検討したり、理解した内容を日常生活に結び付けて思考する習慣を身に付けさせたりする必要があります。	実験や観察だけでなく、結果から「なぜそうなったのか」をクラスやグループで話し合い、自分の考えを言語化する時間を確保します、また「予想」→「実験」→「考察」→「結論」の学習サイクルを繰り返し学びを定着させていきます。	理科への苦手意識を減らすためにも、児童がこれまでに学んだことや日常生活での体験を授業の体験を授業の導入や問題設定に活かし、実感をともなった学習を設定します。また、観察や実験(植物や天気・星空の観察)も積極的に取り入れていきます。
5年	教科の正答率の基礎と活用を見ると、活用の方が目標値との乖離が見られます。当然、基礎知識の習得も大切ですが、活用面として獲得した知識を使って考える事例を多く取り入れて、考える力を伸ばすことに力を入れていきたいと考えます。	知識・技能と思考・判断・表現の観点別で見ると、目標値からの乖離について、思考・判断・表現の方が倍の開きが見られます。そのため、学んだ知識を使って、友達と話し合ったり、レポートにまとめるなど、思考する授業展開の工夫をしていきたいと考えています。	教科書で教える基礎・基本的な知識・技能は重要視しつつ、児童の興味・関心を引き、意欲的に学ぼうと思える教材を準備していきます。また、授業内容に工夫を加え、覚える内容と考える時間を意図的に準備し、取り組んでいきます。
6年	活用の正答率ではいずれも1ポイント内外下回っています。このことから、応用力を伸ばす指導が必要であると考えられます。また、生命・地球領域の校内正答率が目標値・区平均・全国平均を1ポイント内外下回っていることから、この領域での基礎・応用力を伸ばすような指導が課題であると言えます。	物資・エネルギー領域の授業は理科室で行う実験・観察が多く、実験・観察から得られる知識・技能の能力が大きく期待できます。実験・観察を細部にわたり指導し、考察力やまとめる力、応用力を伸ばす活動を積極的に行います。一方、生命・地球領域など自然を扱う内容の授業においては、ニュース・新聞などの情報、ICTを活用した映像などで意識を発揚し、校外授業、または授業外活動などに積極的に取り組めるような指導をしていきます。	単元ごとの問題演習にとどまらず、日常生活における興味・関心などの問題意識とその解決の方法を学べるように指導をしていきます。そのための問題提起を随時提供することで学習意欲を発揚します。そして、児童自らが積極的に知識や技能を習得し、自ら考えて判断し、主体的に学ぼうとする態度の養成ができるような学習機会を提供します。